



## まなびフェスト(学校の取組) 中間評価

<数値の見方>

児童…まなびフェストに掲げられている項目の評価指標の達成状況 n=168

教職員…まなびフェストに掲げられている項目についての取組に対する評価(肯定回答の割合)n=19

保護者…まなびフェストに掲げられている項目についての学校の取組に対する評価(肯定回答の割合)n=92

### 1 「みずから学ぶ子ども」

※網掛けは目標未達成

No	項目	児童	教職員	保護者
1	<b>主体的に学習に取り組む児童を育てる授業づくりを推進します。</b> ※児童アンケート「授業では、進んで学習に取り組んでいますか。」の肯定評価 90%以上	96	80	88
2	<b>学年に応じた家庭学習の習慣を身に付ける取組を行います。</b> ※児童アンケート「学年に合った時間(学年×10分)の家庭学習ができている」の肯定評価 80%以上	89	71	92
3	<b>本に親しみ、望ましい読書習慣を身に付ける取組を充実させます。</b> ※読破目標達成率 80%以上(1,2年 70冊,3,4年 50冊,5,6年 30冊かつ 3,000p)	69	73	92

#### No. 1 「主体的に学習に取り組む児童を育てる授業づくりを推進します。」について

今年度は、児童の主体的な学習の取組を図ることをねらい、UDL（学びのユニバーサルデザイン）※1を研究テーマに掲げ、日々の授業改善に取り組んでいます。それぞれの時間に身に付けさせるべき資質・能力を指導者のみならず、児童もきちんと意識し、自らの学びを調整しながら課題解決に向けて活動できる場を授業者がきちんと保証すること、授業の終わりに一人一人が学びの成果をしっかりと自覚できるようにすることを意識した授業を積み重ねていきたいと考えています。

※1…UDLとは、『多様な特徴を持つ児童生徒が教室で学ぶことを阻むバリアを最小限に抑え、すべての児童生徒が最も効率的に、自分に合った、効果的な学習を実現できるようにするための、学習環境デザイン』のこと

#### No. 2 「学年に応じた家庭学習の習慣を身に付ける取組を行います。」について

家庭学習強化週間や担任の指導、評価がきちんと行われていることについて、保護者からは概ね高い評価をいただいておりますが、「家庭学習強化週間の取組の頻度(回数が多すぎるのでは?)」「発達段階と宿題の量が合っていないのでは?」「子どもに任せず、もっとしっかりと宿題を出してほしい」といった意見もいただいております。家庭学習の取組をさらに充実したものにしていくためには、「家庭学習は何を目的に行わせるのか」「どのような内容をどの程度出すのか」について教職員で共通理解を図り家庭と連携しながら家庭での学習習慣を身に付けていきたいと考えています。

#### No. 3 「本に親しみ、望ましい読書習慣を身に付ける取組を充実させます。」について

学校では、朝読書や週末読書、児童会での取組(読書月間)などを行っています。冊数やページ数による目標設定は、読書意欲向上への外発的な動機付け(きっかけづくり)と捉え、数値のみにこだわらず、本を読むことの楽しさを味わわせることも大切にしていきたいと思っております。また、今年度は図書ボランティア“Flip”に加え、町のボランティアグループ“クローバー”の皆様のご協力をいただきながら、図書の修繕などの環境整備を行っています。引き続き、外部の方の力も借りながら読書指導の充実・読書環境整備にも力を入れていきます。

### 2 「思いやりのある子ども」

No	項目	児童	教職員	保護者
4	<b>自分から進んで元気なあいさつができるように指導します。</b> ※児童アンケート「いつでも、どこでも、誰にでも、自分から進んで挨拶することができたか。」の肯定評価90%以上	80	60	94

5	前向きな言葉かけやクラス会議による児童の信頼関係の構築に努め、児童の自己肯定感を育みます。 ※児童アンケート「自分にはよいところがある」の肯定評価 90%以上	79	87	94
6	異年齢集団活動を充実させ、人間関係を深めます。 ※児童アンケート「掃除やキッズタイムの時に違う学年の人と協力して仲良く活動することができてたか。」の肯定評価90%以上	97	60	99

**No. 4 「自分から進んで元気なあいさつができるよう指導します。」について**

昨年度から、目標値を肯定評価 90%と上方修正しました。児童評価 80%は低い数字ではありませんが、個人差があったり、相手によってはあいさつできなかつたりという実態もあります。保護者アンケートから「一人も挨拶をしてくれない」というご意見もいただきました。「いつでも」「どこでも」「誰にでも」「自分から」という視点を児童と共有し、引き続き取り組んでいきます。

**No. 5 「前向きな言葉かけやクラス会議による児童の信頼関係の構築に努め、児童の自己肯定感を育みます。」について**

昨年度に続き、前向きな言葉かけ（ペップトーク）を通じ、児童と教師、児童と保護者の信頼関係の構築を図り、児童の自己肯定感を図ることに重点をおいています。そして、児童の自己肯定感を図る指標として、全国学力学習状況調査の質問紙項目にある「自分にはよいところがある」のアンケートを全校児童対象に実施し、本項目の達成状況を検証することとしました。一人ひとりの児童を受容し、適切な場面で承認・励ましの言葉をかけることを意識しながらこれからも児童に接していきます。

**No. 6 「異年齢集団活動を充実させ、人間関係を深めます。」について**

今年度は、異学年の児童と一緒に遊ぶ取組“キッズタイム”を昨年度までの縦割り班ごとに遊ぶ形態から、6年生が活動を企画し、下級生は自分が選んだ活動に参加する形態へと実施方法を見直しました。以前よりも、主体的に異学年の児童とも仲良く協力しながら活動できていると評価しています。6年生のリーダーとしての働きもしっかり評価しながら、2学期以降も工夫した活動を展開していきます。

**3 「身体をきたえる子ども」**

No	項目	児童	教職員	保護者
7	運動に親しみ、技術の習得や体力の向上に進んで取り組む活動を充実させます。※岩小キッズの振り返り 3 項目「休み時間、体育の時間、マラソン」に関する児童アンケートの肯定評価 80%以上	91	80	94
8	「早寝・早起き」「食育」など健康的な生活習慣を育む取組を行います。 ※児童アンケート「早寝・早起き・朝ごはん」を守ることができている」の肯定評価 80%以上	78	57	91
9	メディアコントロールの習慣や情報モラルを身に付ける活動を充実させます。※児童アンケート『岩小キッズのネット・ゲーム宣言』や家の人と決めた決まりをきちんと守っている」の肯定評価 80%以上	85	64	88

**No. 7 「運動に親しみ、技術の習得や体力の向上に取り組む活動を充実させます。」について**

運動習慣の形成、体力向上に関しては、児童・教職員・保護者とも高い評価となっています。「元気アップチャレンジ」(60 プラス)などの取組を充実したものにし、2学期以降も継続していきます。

**No. 8 「『早寝・早起き』『食育』など、健康的な生活習慣を育む取組を行います。」について**

健康的な習慣の育成については、まだまだ工夫改善の余地があると捉えています。全体指導に加え、保護者と連携した個別の指導・支援にも力を注いでいきます。

**No. 9 「メディアコントロールの習慣や情報モラルを身に付ける指導を充実させます。」について**

ネット・ゲーム宣言や「我が家のきまり」を決めて取り組むこと、学校では学年の発達段階に応じた情報モラルの指導を行うことを取組の柱にしています。「学校での取組期間だけ守っている」や、「個人差が大きい」という課題が伺えます。また、スマートフォンや携帯用ゲーム機の所持率の高まり（6年生の自分専用端末所持率 62%）に比例して、長時間利用に伴う健康面、SNS 等の利用に伴うトラブルなどの実態が表面化しつつあります。学校では、月に一度の情報モラル指導に加え、外部講師を招いた教室を開催し指導を継続していくとともに、家庭と連携しながら引き続き取り組みを強化していきます。

※家庭の取組については、次号でお知らせします。